令和５年度昭和村総合教育会議　議事録

１　日　時　　令和５年１１月２２日（水）午後１時４４分

２　場　所　　昭和村公民館研修室

３　出席者　　昭和村長　舟木幸一

昭和村教育委員会教育長　栗村良輔

昭和村教育委員（教育長職務代理者）　五十嵐麻裕子

昭和村教育委員　本名　敬

昭和村教育委員　栗城照美

昭和村教育委員　五十嵐吉弘

４　欠席者　　昭和村総務課長　束原健二

５　事務局出席者　　昭和村教育委員会教育次長　栗城進也

昭和村教育委員会教育係長　鵜川洸一

６　議題

(1)　令和５年度教育行政予算執行状況等について

(2)　教育行政全般について

７　傍聴人　　なし

８　会議概要

◎　開会（午後１時４４分）

教育次長が開会を宣言した。

◎　あいさつ

はじめに村長が行い、続いて教育長が行った。

◎　議事

教育次長：これより議事に移ります。この会議は議事録を作成し、後日、昭和村公式ホームページで公表いたします。なお、個人の秘密を保つ必要があるもの、公表すべきでないものについては、その部分を非公表とさせていただきます。

それでは、議事の議長は要綱第４条の規定により村長にお願いいたします。

村長：暫時の間、議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力をお願いします。それではまずはじめに、議題（１）令和５年度教育行政予算の執

行状況等について、事務局の説明を求めます。

（教育次長が説明した。）

村長：説明が終わりました。それでは、皆さま方からご質問等を含めてご発言をお願いします。

本名委員：ここ数年、教育委員会の予算要求が非常に良く予算措置されていてお礼を申し上げる。これからも大きな事業、例えば小中一貫校の整備なども想定されるので、今後も教育費の予算措置はよろしくお願いしたい。

村長：教育はすべての面での基礎であることから、教育行政は大事にしたいと言うのが村長としての方針。村財政は厳しいが教育費の要求にはできるだけ意向に沿った予算措置をしてきた。今日の資料の平成６年度事業計画では多額の施設整備事業が計画されているが、これらについては財源確保を検討しながら予算措置を行っていきたい。

栗城委員：教員宿舎の建て替え事業が進んでいるが、今後、校長先生方が不便さを感じず、快適に過ごすことができると思うととても良かったと思う。

村長：石仏地内の教員宿舎は村議会でも校長住宅の建て替えの要望があった。財政的な面で延期していたがようやく着手することができた。校長、教頭は学校運営の最前線で働いてもらっているので快適な環境で過ごしてもらうことは大事だ。良い建物ができることを期待している。

ただ、隣との遮音性はしっかりと設計の中で考えてほしい。

本名委員：計画では既存建物の場所に新築するわけだが、あの敷地は国道より低い場所であり、進入路が急な坂道になっている。土盛り造成ができれば良かったのだが、既にほかの建物（昭和福祉会職員宿舎）が建っていてできないようだ。また、敷地内は舗装されておらず、雪解け後や雨の後には水たまりができやすくなっている。建設用地の舗装も考えるべきではないか。

今後、村の公共施設を建設する場合は先を見通して用地を選定してほしい。

村長：今後、公共施設を計画する場合はご意見を参考にしたい。

なお、今着手している建物の新築場所を選定した理由は事務局から説明させます。

教育次長：当初の計画では昭和村公民館の駐車場内を想定していたようだが、上下水道の引き込みについて多額の経費が見込まれること、それから、冬期間は

公民館駐車場は防災ヘリコプターの離発着場に指定されていて適さないことから、既存建物を解体しその場所に新築することになった。

栗城委員：敷地は舗装するのか。

教育次長：同敷地内にはほかの教員宿舎も存在している。今後、その建物の在り方も検討しなければならない。舗装をすべきか否かは一体的に考えていきたいので、しばらくは未舗装のままだ。水たまりがひどい場合は採石などを敷いて対応したい。

五十嵐（麻）委員：専門のICT教育支援員を委託していることで、先生も児童生徒も電子黒板やタブレット端末など使いこなせるようになり良かったと思う。

また、新年度も複式学級支援講師の配置を願うが、なり手が不足している今、先生の配置についてはどうしたら良いのだろうか。

教育長：どこの市町村も教員、講師不足は同じで苦労している。教員になりたい人が少ない。過日、会津美里町の教育長に博士トンネルも開通し会津美里町からも容易に通勤できる環境になったので、もし、適任者が町にいるようなら紹介してほしい旨を話してきた。ほかの教育長にも話をして確保できるよう努力したい。

村長：児童生徒には１人１台タブレットを配付して家庭でも活用されているようだ。ゲームもｅスポーツの取り組みもあることから否定するものではないが、それに使っては困ると考える。このたび、電子図書館が開設されたのでそのタブレットで是非とも、家庭で電子図書館を活用する日常を作っていただけると良いと思っている。

教職員の人材確保については、県教委では新年度の人事作業が始まったころである。私も県庁に出向いた際には教職員の配置についてお願いをしてきている。あとは良い人材が配置されるよう教育長に頑張っていただきたい。

本名委員：全くそのとおりで、その時期になってきている。村長、教育長には頑張ってもらって、県で講師を見つけてもらうように働きかけてほしい。

教育長：小学校長からの情報だが昭和村で働きたいと言う先生が２人いるとのこと。

村長：だれでも良いということではない。問題のある人では駄目。安易に喜んではいけない。

五十嵐(吉)委員：ALTの配置が継続できて良かったと思う。一時は心配した。後任も非常に明るい人で様々な場所にも顔を出して良い感じの人だ。長くいていただくことを願う。

村長：ALTの任期は３年なのか。

教育係長：最長で３年間です。

村長：児童生徒が生の英会話に親しむことは大事。これからは英語は必要なので小さな村にあっても国際的な感覚を身に付け、将来この村で活躍してもらうことが大事なこと。外国人に対してのコンプレックス解消も重要だ。

栗城委員：これからの小、中学校の５年先、10年先の校舎の在り方はどう考えているのか。今のまま多額の経費を費やしながら存続させるのか。思い切って保育所や学校給食センターも入った校舎に建て替え、小中一貫校とする気持ちはないのか。一貫校の話が出て何年にもなるが国の補助金が使えるのであれば先延ばしせず一貫校を本気で進めてどうだろうか。

村長：これについては小中一貫校を進めるべく、広報紙などで周知したり視察研修に行ったり機運を醸成することが進んでいると思う。一貫校は小学校、中学校それぞれ別な校舎でも構わないが、やっぱり一緒の校舎の方が理想的だと思う。その場合は方法が２つあって、新しく校舎を造るか、あるいはどちらかの学校を改築して活用するかである。財源の関係もあるし教育環境の整備という視点とバランスをとる必要がある。私個人としての理想は、新しく校舎を新築した方が良いと思っている。教育の内容も、子どもたちが自分が生まれ育った村がどういう村なのか、カスミソウ、からむし、農業、自然、歴史をしっかり学習して、ここが好きだと言うような教育を本村独自の９年間の教育カリキュラムを作って、昭和村バージョンの教育をするということが大事だと思う。学力向上も大事だが村が好きだとなれば、将来Uターンするかもしれないし、今はどこにいても村にアプローチすることもできるので、そういう子どもたちを育てるには一貫校にして村独自の教育カリキュラムを作ることが大事だと思っている。建物が良くなればいい話だけではなくて、保護者や村の人たちがそういう気持ちにならないと駄目だと思う。それには学校教育ばかりにげたを預けるのではなく、社会教育の分野でも保護者や村民がなぜ小中一貫校が必要なのか、そのためには自分たちがどういう気持ちで子どものために行動しなければ

ならないのか、勉強して昭和村の役に立つ人間になれと言う親になることがポイントだと思う。語弊になるかもしれないが、村外の中学校を選択する人もいる。なぜなのかを考える必要がある。中高一貫校に進むことによってその先の進学が有利になるからと言うだけだったら、昭和中学校で学力向上ができるという実績を作ればいい話。時間はかかるかもしれないが昭和村の教育を皆さんと一緒に考えていきたいと私は思っている。

五十嵐（麻）委員：それに関することで、私は学童保育で保護者と接することがあるが、村外から子育て世代が移住して増えてきている。その人たちの気持ちを大事に育てていかないと永住してもらえないのではと感じている。

村長：ほかの自治体の話だが、子ども連れで移住した人の中にはこの村のように、複式学級で個に応じた教育ができるから、小さい学校の方がいいという家族もいるそうだ。全員が必ずしもその考えではないだろうが。

下郷町で小中一貫校を推進しているグループがあって、その調査結果を見る機会があったが、ほとんどの人が小中一貫校にしてほしいという意見だった。でも100パーセントではなかった。

昭和村の保護者もすべてが小中一貫校に賛成かというと、そうではないかもしれないが、大多数が賛成だとすればそれは大事なことで、教育委員会として村として将来の村づくりを、教育をどうするか考えたときに、一貫校がどうしても必要だということであればその線で進めていくことも大事だと思う。

五十嵐（麻）委員：子どもがいなくなる集落が出てきているということに危機感を抱いている。

村長：村は移住定住に心砕いているところです。その１つがカスミソウ新規就農者の確保。単にカスミソウの売り上げを伸ばして産業としての位置づけを確立するだけではなくて、若い農業者が各集落に移住して、集落の一員として活動する、そういう集落づくりを行うことで集落の元気を村全体の元気につなげることが私の考え。若い人が入ってくると結婚して子どもが生まれる可能性がある。本村の人口は自然減だが転入転出の社会増でカバーして、人口そのものの増加は難しいけれども人口減少を緩やかにしたいというのが村の人口ビジョンだ。転入の部分は新規就農者や織り姫がベースになっている。その他にも村内の事業所で働いてもらう人も増やしていきたい。

五十嵐(吉)委員：本村の学力向上に関してだが、マンモス校とは違ったメリットが絶対あると思う。徹底してマン・ツー・マンができると思う。それは一般的な教育ではなくて村独自の教育をすれば絶対にほかに負けない学力の向上につながると思う。今のうちから村独自の学力向上のための教育方法を考えた方が良いと思う。

村長：安易に学力向上と言ったが、皆同じレベルではないし、それぞれ個性があって能力や考えだって違う。学力向上とは個の能力を最大限引き上げるための教育だと思う。

五十嵐(吉)委員：それは昭和村だからこそできる。

村長：県立川口高校はそれをやっている。生徒一人一人に寄り添ってその生徒に合った指導をする。大学進学であれ就職であれ。そのような高校は余りないと思う。中学校も個に合った教育が大事ではないかと思う。教育長はどうお考えか。

教育長：本当に大事である。機能も研究授業が小学校で行われたが20人の参観人の中で３人の児童が物おじせずに堂々と自分の意見を発表できていた。これは個別指導のたま物だと思っている。30人学級ではできないこと。これを中学校に進学する時にどう生かしていくかが大切だと思う。

村長：県教委は学力向上を図る指標として全国学習学力調査の結果で一喜一憂している。小さな学校では意味がないと思っている。そうでなく、個に応じた教育をやることが大事だと私は思っている。

栗城委員：それには能力を引き上げる素晴らしい教師が必要だと思います。

村長：正にそうだと思います。

では、議題（１）については以上で終了してよろしいですか。

（全員、異議なしの声）

村長：続いて議題（２）教育行政全般についてに移ります。事務局の説明を求めます。

（教育次長が説明した。）

村長：それでは皆さまからご発言をお願いいたします。

栗城委員：通学路のことで。下中津川集落内の国道をダンプカーが頻繁に往来し交通事故も発生している。集落裏の農道を拡幅してバイパスにしてはどうでし

ょう。通行台数を分散できるのではないか。

村長：その件は第４回議会定例会一般質問でも通告があり現在答弁を検討しているところなので、現段階では回答は控えさせてください。しかし、村民の命を守ることが我々の仕事なので危険性があるのなら何らかの対処はしなければと思っている。

五十嵐（麻）委員：子どもにかかわる行政の担当課が就学前と後とで分かれていて、子ども課のような組織ができないものかと考えている。そうすれば、保育所から中学校までの連携した教育が可能になるのではないか。

村長：会津美里町やほかの自治体でも子どもに特化した部署を設けているところがある。国も子ども家庭庁を創設して横断的な施策を行っているので、本村でもその在り方については検討する時期が来ると思うが現段階ではすぐにとは申し上げられない。本村の小中一貫校は小、中学校だけではなくて保育所の子どもがそのまま中学校まで進むという現状も考えなければならない。

五十嵐（麻）委員：そこが大事だと思っている。放課後児童クラブも宙ぶらりんな立場でもあるので。

本名委員：村長は先ほど、小中一貫校は新築校舎が理想と考えているとのことだが、私も同じ考えだ。11月30日に、子どもの教育検討委員会が開かれるが、校舎新築なのか既存の校舎を使うのか未定の状況では議論が進まないのではないか心配。新築という方針を示しておくべきではないか。これまでも同様の機会があったが、それが原因でうまく機能しなかった気がする。建物の方針を示せば様々な意見も出やすくなるのでは。

村長：言いたいことはわかります。村の状況を言いますと、あと４年で村勢100周年。これまでの100年とこれからの100年を考える記念の年を迎えるので、その時に何か記念となるものを行いたい。それが小中一貫校なのか役場庁舎新築なのかは未定だが。

本名委員：100周年の時に小中一貫校について発表できるとか、何か示せれば良いと思う。ただ、去年も言ったが我々教育委員も小中一貫校は新築なのかどうかと問われると答えることができずつらい思いでいる。繰り返すが、11月30日の会議は先ほど言ったようにそこがポイントになると思う。方針が聞けない会議を開いても建設的な意見が出ない。

村長：教育委員会事務局としては、小中一貫校がなぜ必要なのか、それで昭和村がどう変わるのか、そういう理論的な部分をしっかりと構築した上で、学校はどの場所でどんな設備を整えて、というような段階を踏もうとしているのか。

教育長：そうです。

村長：校舎はこうで、その中にこういうものを詰め込んで、という建物からではなくて、理念からしっかり積み上げていくということですね。

教育長：そうです。

本名委員：それもわかるが、参集した人は、理念よりも建物はどうするのかだと思う。

五十嵐(吉)委員：ハードが主ではないのではないか。保護者は小中一貫になるとどんな教育になるのか、学校運営になるのか、ということが中心になるのではないのか。

本名委員：それは既に1回聞いている。その時も建物をどうするかで会議が失敗している。理想は十分聞いている。

五十嵐(吉)委員：新しい建物ができてから小中一貫校にするとなると何年もかかってしまう。建物を造ってからではなくて、実験的に進めていけば良いのでは。そして建物を造ればいいのでは。

本名委員：それでも工事は必要になる。既存校舎の一方を使うとなっても小学生、中学生それぞれに対する校舎の基準は違う。改修や改良は必要になってくるので、長い目で見た場合に無駄な投資になるのではないか。

村長：既に小中一貫教育として乗り入れ授業をしているが、保護者は知っているのか。

教育長：知っている。

村長：どういう評価をしているのか。

教育次長：学校で保護者と児童にアンケートを採っている。児童からは授業がわかりやすい、楽しい等の高評価だった。保護者も子どもから話を聞いて良い学習環境になっていると評価している。先生も改めて自分の指導方法の点検ができたなど良い評価をしている。

五十嵐(吉)委員：であれば、将来は新築なんだと言ってもらえば良いのでは。

村長：今の段階では理想は新築だ。

本名委員：理想でも良いから、教育長からはっきりと新築でと言ってもらいたい。

教育長：なかなかそれを言うのは勇気がいること。

五十嵐（麻）委員：保護者の中でも振興計画を見て、小中一貫校になることはイメージとしてある。その後どうなったの、と聞かれる。

次長：子どもの教育検討委員会は委員と事務局が対じするのではなくて、委員の方々で議論していただく場です。最初に保育所、小･中学校、教育委員会事務局それぞれの現場の現状と課題を出してもらい委員全員で共有する。次に、その課題解決を議論してもらう。課題解決の議論の中で、例えば、早期に保育から中学校まで一緒の体制を作るべきだ、とか、その場合は建物も一緒が良いのではないかとか、建物を一緒にするなら新しい建物を作った方がよいのではないか、とか、そういったところまでも議論していただきたい場です。

村長もなかなか申し上げられない理由は、新築ありきや既存校舎活用ありきになってしまうと、そこで会議がストップしてしまう恐れもある。建物のことまで皆さんで議論していただいて、例えば、検討委員会では新築で進めようとの結果になった時は、村長も自分の理想と同じだということで堂々と新築の方針を示されるのではと思う。

あるいは、既存の校舎を、経費を削減しながら改修して、という検討結果になるかもしれないので、最初から新築ありきで進めたのでは検討委員会の意味がなくなってしまう。

これまでは、教育長サイドから小中一貫校を設置するので意見を聞かせてくれというだけの会議で、校舎の件はあやふやにしていたことは存じている。

なお、教育委員会定例会でもこれまで何度か小中一貫校の話題が出たが、委員４人は全員が校舎新築との意見でまとまっていると認識している。昭和村教育委員会は小中一貫校は新築校舎で進めたい考えであると申し上げて良いと思う。

村長：これまでは、村長からの押しつけととらえられることを危ぐしていた。

五十嵐（吉）委員：これからはボトムアップで進めていくということですね。

本名委員：去年の総合教育会議で、教育委員会で決めて報告していただきたいと言われていたので、そのつもりで我々も議論してきたところです。

村長：是非とも８回の会議でじっくりと煮詰めて、熟慮して、報告をまとめてほ

しい。

今日は様々ご意見を賜りました。ありがとうございます。ほかにご意見がないようなので、議事を終了いたします。

◎　その他

教育次長が、その他について発言を促したが、出席者からは発言はなかった。

◎　閉会（午後１５時３３分）

教育次長が閉会を宣言した。